

兵庫県でのアスベスト健康影響実態調査における論点

1 曝露経緯の考え方について

- (1) 曝露形態の区分（職業性、家庭内、近隣、部屋等、不詳）の方法について
 - ・ 聞き取り調査の結果、対象者が例えば職業性曝露と家庭内曝露など複数の区分に該当する場合の主な曝露経緯の評価
 - ・ 特に、職業性曝露以外である家庭内、近隣、部屋等、不詳の具体的な曝露経緯の評価
 - ・ 男女比の評価
- (2) その他、確認しておくべき事項について

2 居住歴等の考え方について

- (1) 居住していた場所、年代、期間の評価について
 - ・ 近隣曝露が疑われる事例について、昭和 30～40 年代の間で複数箇所に居住している場合の評価（どの年代に、どの場所に、どれくらいの期間居住していた者を解析するのか。）
- (2) 一般環境経由による曝露について評価する為には、どの区分の曝露形態の者を評価の対象者とするか

3 石綿取扱い事業所等の把握について

- (1) 厚生労働省等の公表資料による把握
- (2) 各自治体で調査した昭和 30 年～40 年代の石綿を取扱っていた可能性のある事業所、石綿に曝露する可能性のあった場所、事例の把握
- (3) その他、把握しておくべき事項について

4 中皮腫の診断方法について

診断の方法（画像、病理など）について確認し、診断精度について評価

5 当該調査によって得られる結果と今後の課題

- (1) 職業性曝露以外でのアスベスト曝露の実態を把握（サブスタディー）
- (2) 今後の疫学的調査設計の必要性について